

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105735
法人名	株式会社 ツクイ
事業所名	ツクイ松山南江戸グループホーム
所在地	松山南江戸2丁目1-29
自己評価作成日	平成29年2月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成29年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心して暮らしていただける様に、ご家族様、主治医との良好な関係性の構築に日々勤めている。ご家族様には訪問時に必ず職員が様子をお伝えするようにしている。また、毎月、日々の様子を便りに書いて知らしたり体調を崩した時はその都度、連絡を取っている。また主治医へもいつでも連絡が取れる体制となっている。健康状態に注意しながら、季節を感じられるよう、春・秋は屋外活動を多くし夏には夏祭り、冬はクリスマス会と大きなイベントも行っている。十人十色の入居者様が主体としたホーム生活を心がけ、家事等のできる事は入居者様が行い、職員はサポート、支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●地域行事に参加したり、事業所主催の周年祭やいもたき会等に地域の方も参加したりする等、交流を重ねている。3月の周年祭には餅まきを行い好評を得ている。餅つき時は、地域の方に道具を借りたり、協力を得ている。  
●職員3人態勢の時間帯に、利用者の希望があれば近くのスーパーに買い物に行ったり、ドライブしたりできるように支援している。敷地内の畑は職員が管理しており、2階ユニットの利用者も様子を見に来てくれる。重度の利用者には、天気や気温等を見て玄関前の駐車場に出て過ごすような時間を作っている。系列デイサービスで車を借りることもできるため、計画を立てて外食や街、公園等に出かけている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目: 28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 松山南江戸グループホーム

(ユニット名) みかん

記入者(管理者)

氏名 本田 豊

評価完了日 H29年 2月 14日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 十人十色の理念を掲げ、一人一人のニーズに合ったサービスの提供を心掛けている。一人一人の入居者様に担当職員を決め毎月ご家族様に暮らしの様子を便りに書いてお知らせしている。	
			(外部評価) 4年前に職員で話し合っって作成した理念を居間に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の文化祭、地方祭、地域防災訓練には、積極的に参加をしている。夏祭りには、城西中学校の吹奏楽部の演奏、周年祭では、餅まきを企画し、地域交流を行っている。	
			(外部評価) 地域行事に参加したり、事業所主催の周年祭やいもたき会等に地域の方も参加したりする等、交流を重ねている。3月の周年祭には餅まきを行い好評を得ている。餅つき時は、地域の方に道具を借りたり、協力を得ている。時々、近所の方が見学に来る。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症サポータ養成講座を開催し、10代から70代15名の参加があった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 松山市介護保険課、包括支援センター民生委員、町内会長、ご家族様の参加があり、夏祭りや、周年祭は共に行うように働き掛けている。多くの地域住民の参加する行事として定着している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に家族の参加を得られるように、周年祭やいもたき会の行事と併せて行う等、工夫している。会議時には、行事の周知や打ち合わせ等も行っている。現在、利用者の参加はない。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議を通じてホームの様子を伝えている。また危機管理の必要性が増している災害や防犯については迅速に対応している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に、市の担当者や地域包括支援センター担当者が参加しており、事業所の現状報告を聞いている。又、意見やアドバイスがある。シルバーまもるくんの家の登録をしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束委員会を設け、職員間で入居者様の生活の質の向上を意識してケアを行っている。防犯の観点からまた離脱の可能性の高い入居者様が多いので安全のため現在は施錠している。</p> <p>(外部評価) 法人の身体拘束マニュアルをもとに内部研修を行っている。玄関は自動ドアで開くが、ユニット入口や居間の窓等はロックをしている。「帰りたい」とドアをたたくような利用者もいるが、職員は、「もうすぐおやつですよ」等と声をかけて、気分を紛らわせたり、外と一緒に歩く等して支援している。</p>	<p>法人では事故ゼロを目標に挙げて安全対策に力を入れているが、安全と自由の両面から利用者の視点で生活環境について点検してみてほしい。鍵をかけることの弊害についても話し合ってみてはどうだろうか。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待は犯罪であることを毎年勉強を繰り返している。また報道などがあるとその都度、注意を行っている。また職員のストレス軽減のため過重労働にならない体制や希望休の確保に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見人の入居者様を受け入れ、対応している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書、契約書を用いて、丁寧に説明説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 現在、松山市の施設相談員の受入の申し込みをしている。  (外部評価) 居室には、利用者の普段の様子を記入したノートを置いており、家族来訪時に確認できるよう工夫している。毎月発行する「みなみかぜ」便りは、A4紙に事業所全体の活動、来月の予定、職員の紹介を載せ、個別に様子を記して送付している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎月カンファレンスを行っている。また契約更新時には面談をしたり、日頃から事務所のドアを開けて、常に職員との対話を意識している。	
			(外部評価)	
			職員向けに認知症サポーター養成講座を開き、地域の方も誘って一緒に勉強した。午後、職員は順番に1時間ずつ休憩をとっている。職員はレクリエーションや掲示物等、それぞれに担当があり、話し合いを行いながら工夫して取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			会社を上げて介護職員処遇改善加算1を取得し給与の向上に努めている。また希望休は可能な限り取得できる体制を取っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			社内研修を毎月行っている。また、他のサービスへの研修や外部研修も定期的に参加を促している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			昨年より、福祉事業者合同事例発表会を開催し同業者との関係作りに努めている。今年も同業者と合同で11月17日に開催する。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居初期加算を取得し、入居時には計画作成担当者が時間を掛けて、ご本人よ要望、状態を確認している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居初期加算を取得し、入居時には計画作成担当者が時間を掛けて、ご家族様の要望、状態を確認している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			福祉用具を施設で準備をしたり、連携医への連絡を早急にし安心して暮らせる支援をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			毎日、共に家事をしたり運動をしたり歌ったりと一体感のある関係性の構築に勤めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			希望に応じ、自宅への一時帰宅の支援を積極手に行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			ご家族のご希望や協力を得て状態に応じた対応を行っている。	
			(外部評価)	
			年賀状や暑中見舞いを家族に出せるよう支援している。共用型のデイサービス利用者と一緒に過ごすことで、利用者も会話や活動量が増えている。利用者からの個別の希望については、家族に伝え家族が支援するケースが多い。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 毎日、共に食事をしたり交流を通じて親しみ、労わりながら生活している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 要望に応じた対応を行っている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 買物に行きたい入居者様には買物と一緒にいたり、入浴を多くしたい方の要望を汲んだり、その時々の状態に合わせた対応を心がけている。 (外部評価) 昨年11月に、家族に聞き取りを行い、利用者の生活歴や趣味、好み等についての情報をまとめている。	希望を表すことが難しいような利用者についても、何を求め、必要としているか本人本位の視点で検討できるように、利用者についての情報収集に取り組んでほしい。又、得た情報を介護計画につなげていくような取り組みも期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族様と相談しできる範囲での対応を行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 暮らしの様子、バイタルを毎日記録し把握に努めている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			カンファレンスを開催しその都度、モニタリング、アセスメントを基にして介護計画を作成している。	
			(外部評価)	
			法人の書式を用いて3ヶ月ごとに介護計画を作成し、アセスメントやモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			1Fは機能訓練。2Fは料理作りとホーム内でも特色のあるユニットとなっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地方祭、文化祭、餅まきなど地域の取り組みに参加している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)  発熱時、便秘時、嘔吐時など何かある時は24時間、迅速に連絡を取っている。	
			(外部評価)  利用者の状態を医師に報告しながら話し合い、入眠導入剤や安定剤等の減薬につながったケースがある。利用者は、不安に思うことをいつでも職員に聞くことができることで安心につながり、入眠剤の必要がなくなったようなケースがある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)  不安なことは何でも相談できる関係性になっている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)  関係医療機関には24時間迅速に連絡とれる関係性になっている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)  入居者様の今までのホームでの暮らしを振り返り、看取りの場所として適切か主治医、ご家族様、職員間でカンファレンスを行い慎重に対応している。「ここで看取れたことが最善の選択だった」と言われたことが職員間の誇りとなっている。	
			(外部評価)  利用者の食事の状態等を見て、医師や家族と話し合い、終末期のあり方について方針を決めている。本人の名前を呼ぶ等、最期まで言葉をかけながら家族と一緒に看取った事例がある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  大量出血時や意識喪失時には即、救急搬送するように徹底している。また、緩やかな変化にたいしては主治医の指示を仰いでいる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  11月2日毎年地域防災訓練に参加し万が一に備えている。また株式会社ツクイは防災時の支援が充実しており、東日本大震災、熊本地震時は全国からの支援体制が整備されている。  (外部評価)  年間4回の避難訓練を行っている。内、一回は、地区訓練に参加して、地域の方の避難誘導にて公民館まで避難する訓練を行った。3月には、消防署の協力を得て火災想定訓練を行った。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  接遇・マナー研修を定期的に取り入れて勉強している。  (外部評価)  内部研修で接遇について勉強している。日々のケアの中では、先輩職員が手本になっている。利用者同士でトラブルになりそうな時には、職員が仲に入り対応している。更衣時には自分で納得のいくように洋服を選ぶ方があり、見守りながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  毎日思い思いの意見が頻繁に聞かれる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 寝すぎないように、食べ過ぎないように、口論にならないように健康で穏やかに過ごせるように支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣の際には、声かけにて服を選んでもらう。髭剃り後には、剃り残しがないか確認している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 昼食は、毎日料理クラブを実施している。  (外部評価) 現在、2階ユニットは自立度の高い利用者が多いため、料理クラブと名付けて、共用デイサービスの利用者と一緒に2ユニット分の食事を作っている。業者からメニューに沿った食材が届き、レシピを見ながら調理している。日曜日は、職員が食材の買い出しをして利用者の好きなものを作っている。時には、牛丼やハンバーガー等を買ってくることもある。台所近くにメニューボードを設置し、職員は、食事内容を話題にしている。職員は、各自で弁当を持参し、休憩時間に食べている。	さらに、利用者個々の食事の好みや習慣等も探りながら、おいしい食事を楽しめるような支援の工夫を重ねてほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) お茶や牛乳だけではなくスポーツ飲料や100%ジュースを提供し脱水症の予防に努めている。また病状もあるので個々に合わせて食事量を変えて提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔状況に応じた支援をしている。また痛みや状態に応じて歯科往診を活用している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	(外部評価のみ)
			歩ける事を支援している。病院退院後歩けなかった方が、歩けるまでに回復し、排泄が自立したお客様のいる。	
			(外部評価)	
			調査訪問時には、入居間もない利用者が「トイレに行きたい」と頻繁に言っており、職員は、その都度トイレに誘導していた。機能訓練や体操等の取り組みが身体機能の維持向上につながり、トイレでの排泄につながっているケースがある。トイレのブザーは、職員の手が必要な利用者や職員が鳴らして知らせている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	(外部評価のみ)
			水分をこまめにとるように促している。	
			(外部評価)	
			入浴を嫌がられる場合は時間を変えたり、同姓介助をおこなっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	(外部評価のみ)
			午前中が入浴時間になっており、利用者個々に週2～3回入浴できるよう支援している。入浴剤を入れることもある。浴槽にゆっくり浸かり温まれるように支援している。	
			(外部評価)	
			入浴を嫌がられる場合は時間を変えたり、同姓介助をおこなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	(外部評価のみ)
			日中の活動量が多くなるように活動を多くしている。また夜間眠れない時は、職員がホールで寄り添っている。	
			(外部評価)	
			日中の活動量が多くなるように活動を多くしている。また夜間眠れない時は、職員がホールで寄り添っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)  処方箋やお薬手帳を活用し十分に気をつけて支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)  料理の得意な入居者様には積極的に関わってもらっている。また歌が好きな方が多いので毎日季節の歌を30分合唱している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)  季節の花を多く見物に行っている。また冠婚葬祭時に外出支援を行った。	
			(外部評価)  職員3人態勢の時間帯に、利用者の希望があれば近くのスーパーに買い物に行ったり、ドライブしたりできるよう支援している。敷地内の畑は職員が管理しており、2階ユニットの利用者も様子を見に来ている。重度の利用者には、天気や気温等を見て玄関前の駐車場に出て過ごすような時間を作っている。系列デイサービスで車を借りることもできるため、計画を立てて外食や街、公園等に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)  トラブル防止のため立替金で行っている。ご本人の必需品は一緒に買いに行くように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)  希望に合わせて実施している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			夜間職員が丁寧に掃除している。ホームの周りには季節の花を植えたり。冬場は床暖房を使用し快適に生活できる。	
			(外部評価)	
			玄関周りにはプランター等に季節の花を整備している。利用者の希望で大型のスクリーンで映画等を楽しむ機会を作っている。毎日、体操や歌の時間を設けており、居間に集まり職員と一緒にいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			ご家族様、入居者様の思い思いの居室となっている。また誕生日には色紙をプレゼントしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			ご家族様、入居者様の思い思いの居室となっている。	
			(外部評価)	
			家族がしつらえたり、衣類の整理等をしている。写真等を持ち込んで利用者が枕ものに必要なものを置いているような方もあった。不在の時には換気をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			バリアフリーで車椅子、歩行器でも安心して移動できる室内環境になっている。	